共同研究

（二〇一二年一〇月一日～二〇一三年三月三一日）

文明と身体

（研究代表者　牛村　圭、幹事　劉　建輝）

〔共同研究員名〕

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川本玲子、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、竹村民郎、永井久美子、西原大輔、平松隆円、古川優貴、山中由里子、稲賀繁美、井上章一、白幡洋三郎、郭南燕、フレデリック・クレインス、堀まどか、楊爽

〔海外共同研究員名〕

眞嶋亜有

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉「『心身／身心』と『環境』の哲学」との共同開催

二〇一三年一月二六日

伊東貴之「今回の共同研究会・共催の趣旨説明、その他」

牛村　圭「共同研究会『文明と身体』班の趣旨、総括と展望など」

フレデリック・クレインス、加藤めぐみ、古川優貴「事例研究」

田尻祐一郎「『心』をめぐる伊藤仁斎と闇斎学派」

総合討論

二〇一三年一月二七日

鈴木貞美「身体論から生命観の探究へ―わたしの場合」

総合討論

〈第三回研究会〉

二〇一三年三月三〇日

牛村　圭「本共同研究会の今後」
竹村民郎、井上章一「対論　終末医療とケアハウス問題：文明と身体の視点から」
全体討論

人文諸学の科学史的研究

〔研究代表者　井上章一、幹事　瀧井一博〕
〔共同研究員名〕
今谷明、上島享、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小路田泰直、斎藤成也、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、藤原貞朗、シルヴィオ・ヴィータ、安田敏朗、若井敏明、大塚英志、林淳、荒木浩、伊東貴之、倉本一宏

〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一二年一一月三日
井上章一「岡倉天心は、どう時代をわけたのか―室町時代へのまなざし―」
高木博志「『日本美術史』と近代京都像」
二〇一二年一一月四日
藤原貞朗「『天心』の息子たち―瀧精一、濱田耕作、矢代幸雄―」
〈第四回研究会〉
二〇一三年一月八日
玉木俊明「二人のO（大塚と越智）とその影響―東京と京都の歴史学―」
質疑応答
井上章一「イギリス産業革命史と明治維新、中国史時代区分論と日本封建制成立をつなぐ赤い糸」
質疑応答
〈第五回研究会〉「『心身／身心』と『環境』の哲学」との共同開催
二〇一三年三月九日
伊東貴之「伝統中国をどう捉えるか？―『唐宋変革』説・『挫折』論・その他のポレミック」
井上章一「京都大学の東洋史学と照葉樹林文化論」
小島　毅「〈東アジア海域に漕ぎ出す〉ことの意義」
総合討論
〈第六回研究会〉
二〇一三年三月二八日

井上章一「日本建築の源流をめぐる諸学説」
斉藤成也「日本列島人成立に関する学説の東西対立」
二〇一三年三月二九日
安田敏朗「日本語系統論と国語学、言語学の起源」
長田俊樹「戦後における日本語系統論の展開」

日本庭園のあの世とこの世―自然、芸術、宗教

（研究代表者　白幡洋三郎、幹事　榎本　渉）

〔共同研究員名〕
小野健吉、鈴木久男、田中淡、豊田裕章、錦仁、原口志津子、原田信男、飛田範夫、日向進、水野杏紀、村井康彦、山田邦和、吉澤健吉、多田伊織、荒木浩、町田香、ウィーベ・カウテルト

〔海外共同研究員名〕
蔡敦達、陸留弟

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉
二〇一二年一一月九日
多田伊織「華林園の記憶―江南から大和へ」
水野杏紀「『作庭記』に記された四神相応と禁忌に関する考察―中国の『宅経』・『風水書』を踏まえて―」
榎本　渉「南北朝時代禅宗庭園の位置付け―夢窓派と幻住派―」
蔡　敦達「中世禅僧の境致認識―『扶桑五山記』を中心に」
陸　留弟、ウィーベ・カウテルト「討論」
二〇一二年一一月一〇日
原口志津子「幻の庭―本法寺蔵『法華経曼荼羅』化城喩品・提婆達多品を例として」
豊田裕章「平安時代、鎌倉時代における風景式庭園の系譜」
町田　香「平安貴族庭園のあそびとかざり」
小野健吉「庭園と浄土―『法然上人行状絵図』に見る九条兼実の月輪殿について」
原田信男「祭祀と饗宴の庭」
日向　進「『市中の山居』と路地」
白幡洋三郎「『日本庭園』の誕生と作庭記」
ウィーベ・カウテルト、陸　留弟、横山　正「討論」
二〇一二年一一月一一日
荒木　浩「四方四季と三時殿―日本古典文学の景観と庭をめぐって」

錦　仁「和歌を詠む庭園―前栽合を中心に」
飛田範夫「『作庭記』原本の再生」
〈第五回研究会〉
二〇一三年三月三日
蔡　敦達「十景、八景の中国における発生と展開」
『作庭記』写本紹介
二〇一三年三月四日
打ち合わせ「研究成果、出版について」

怪異・妖怪文化の伝統と創造―研究のさらなる飛躍に向けて―

（研究代表者　小松和彦、幹事　山田奨治）
〔共同研究員名〕
カバット・アダム、今井秀和、香川雅信、木場貴俊、小林健二、近藤瑞木、齋藤真麻理、佐々木高弘、清水潤、志村三代子、高橋明彦、堤邦彦、常光徹、徳田和夫、永原順子、正木晃、安井眞奈美、横山泰子、大塚英志、飯倉義之、中野洋平、徳永誓子、魯成煥
〔海外共同研究員名〕
マーク・オンブレロ、朴銓烈、マティアス・ハイエク
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一二年一一月一七日
香川雅信「柳田国男の妖怪研究」
大塚英志「擬人化の書式―研究の設計図として」
伊藤慎吾「妖怪化と擬人化の境」
〈第四回研究会〉
二〇一三年一月一九日
朴　美暻「韓国の『ドッケビ』の視覚イメージの定着過程―一九六〇～八〇年代、日本の『オニ』との比較を手がかりに」
デ・アントーニ・アンドレア「幽霊の生産―現代日本のオカルトにおける、噂・現実・体験の構築過程」
徳田和夫「妖怪錦絵『當年十七歳　鬼娘』を読む―幕末の『口さけ女』・『猫股』と二尾獣」
〈第五回研究会〉
二〇一三年三月二三日
マイケル・フォスター「怖いもの見たさ：伝統と観光における見る／見せる関係の一考察」
魯　成煥「韓国の怨霊を祀った日本人」
安井眞奈美「学生たちの創った妖怪たち―付喪神からゆる

キャラまで」
総合討論
小松和彦「総括」

現代民俗研究方法論の学際的研究

（研究代表者　山　泰幸、幹事　小松和彦）

〔共同研究員名〕

石田佐恵子、岩本通弥、浮葉正親、門田岳久、阪本俊生、菅康弘、橋弘文、舩戸修一、法橋量、山中千恵、梁仁實、飯倉義之

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一二年一〇月一四日

浜日出夫「ジンメルの異人論―殺された異人はどこに行ったのか？」

阪本俊生「近代社会と知り合い関係の発達・・・親密性とストレンジャーのはざまについて」

菅　康弘「ストレンジャー体験と愛着の位相、そして『離れる』ことの意味」

質疑応答

〈第三回研究会〉

二〇一二年一一月二三日

梶谷真司「現象学から見た異人論―雰囲気の異他性と集合心性の形成」

法橋　量「ドイツ民俗学における異人観の系譜―フォルクとフレムデ（異人）の相克―」

コメント：小松和彦、岩本通弥、門田岳久

総合討論

司会：山　泰幸

〈第四回研究会〉

二〇一二年一二月二二日

山中千恵「日本製アニメの越境―金髪の美少女戦士はだれにとっての〈異人〉か？」

梁　仁實「日本の映像における植民地朝鮮～見えない『差異』を如何に見えるものにするか」

石田佐恵子「メディアの表象分析の可能性と限界～メディアの〈他者〉表象と〈共同体〉について～」

質疑応答

〈第五回研究会〉

二〇一三年二月一六日

門田岳久「移住者たちの郷土主義―南佐渡における『旅の者』と住民参加型地域開発」
舩戸修一「グリーン・ツーリズムにおける『まなざし』の交錯―大分県宇佐市安心院町の農泊の事例から―」
質疑応答
〈第六回研究会〉
二〇一三年三月三〇日
飯倉義之「妖怪の〈正体〉言説と異人観」
岩本通弥「異人から〈内なる異人〉へ」
マイケル・フォスター「来訪神行事に来訪する異人達：伝統の行方を考える」
魯　成煥「朝鮮女人を神にした日本人」
質疑応答

夢と表象―メディア・歴史・文化

〔研究代表者　荒木　浩、幹事　マルクス・リュッターマン〕
〔共同研究員名〕
安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛治恵、加藤悦子、河東仁、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏哉、玉田沙織、丹下暖子、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀子、松薗斉、松本郁代、室城秀之、木村朗子、伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、箕浦尚美、中川真弓
〔海外共同研究員名〕
ヨーク・B・クヴェンツァー、李育娟、イヴ・コヴァチ
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一二年一一月一七日
趣旨説明、打合せ
安東民兒「浄土教肖像画の中から」
堀　忠雄「入眠期の夢とレム睡眠の夢」
中間討議
二〇一二年一一月一八日
豊田由貴夫「パプアニューギニアにおける夢の民俗理論」
酒井紀美「夢見の場について」
総括
〈第五回研究会〉
二〇一三年一月二六日
金　哲会「対象世界の構築における言語の働きと表象―人間性の曙光を目指して」（一．象徴を操る動物―人間

と言語、二、言語の働きと表象）

玉田沙織「起源譚をめぐる夢―『大和物語』第百四十七段論―」

二〇一三年一月二七日

仙海義之「法然―親鸞の夢想―祖師絵伝が描く聖体示現」

建築と権力の相関性とダイナミズムの研究

（研究代表者　御厨　貴、幹事　井上章一）

〔共同研究員名〕

五十嵐太郎、池内恵、小宮京、佐藤信、砂原庸介、手塚洋輔、中村武生、奈良岡聰智、牧原出、松宮貴之、ウィーベ・カウテルト

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一二年一一月四日

砂原庸介「中心をめぐる政治力学―大阪府市の庁舎問関係」

松宮貴之「政治家の書―東洋的教養と政治との相関性」

〈第四回研究会〉

二〇一三年一月一二日

奈良岡聰智「『別荘』からみた近代日本政治」

五十嵐太郎「建築デザインは、どのように権力を表現するか」

〈第五回研究会〉

二〇一三年三月一八日

佐藤　信「無鄰庵再考―権力による空間利用についての予備的考察」

吉田雅史「政治家自邸の利用実態からみる公私の葛藤」

牧原　出「西下と東上―権力移動の政治と建築」

近代日本における指導者像と指導者論

（研究代表者　戸部良一、幹事　瀧井一博）

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、猪木武徳、河野仁、黒澤文貴、佐古丞、佐藤卓己、庄司潤一郎、武田知己、中西寛、奈良岡聰智、野中郁次郎、畑野勇、波多野澄雄、小川原正道、楠綾子、牛村圭、鈴木貞美、松田利彦

〔海外共同研究員名〕

黄自進、フレデリック・ディキンソン

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉
二〇一二年一二月一日
佐藤卓己「『文化立国』日本におけるメディア論の欠如」
猪木武徳「デモクラシーと尚武の精神あるいはレジームと精神風土―トクヴィル、スミスから学ぶこと―」
二〇一二年一二月二日
奈良岡聰智「『八月の砲声』と日本―加藤高明外相のリーダーシップ再考」
全体討論「研究成果の発表に向けて」
〈第五回研究会〉
二〇一三年二月二日
武田知己「開戦前夜の駐英大使館―重光・吉田の対英工作と指導者像」
楠　綾子「安全保障政策の形成をめぐるリーダーシップ―知的コミュニティ、財界、メディアと自民党政権」
二〇一三年二月三日
黄　自進「密使・密約から見た佐藤栄作の人格的特質と政治指導」
全体討論

徳川社会と日本の近代化―一七～一九世紀における日本の文化状況と国際環境―

（研究代表者　笠谷和比古、幹事　佐野真由子）
〔共同研究員名〕
磯田道史、伊藤奈保子、岩下哲典、上村敏文、魚住孝至、大川真、加藤善朗、上垣外憲一、郡司健、小林龍彦、小林善帆、菅良樹、高橋博巳、武内恵美子、竹村英二、谷口昭、芳賀徹、長谷川成一、原道生、平井晶子、平木實、平松隆円、藤實久美子、前田勉、真栄平房昭、宮崎修多、宮田純、森田登代子、横谷一子、横山輝樹、米沢薫、脇田修、和田光俊、滝澤修身、辻垣晃一、伊東貴之、フレデリック・クレインス、瀧井一博、姜鶯燕、ウィーベ・カウテルト
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一二年一〇月二六日
高橋博巳「草場佩川の見た異国」
早川聞多「蕪村の文人画と春信の浮世絵―上方と江戸、雅と俗」
二〇一二年一〇月二七日

辻垣晃一「森幸安地図の体系化に向けて」
芳賀　徹「徳川家康歿後四百年記念―徳川文明展の構想」
岩下哲典「外圧と士（サムライ）と民衆」
総合討論
〈第五回研究会〉
二〇一二年一二月七日
ウィーベ・カウテルト「『隔蓂記』に見られる明正院御所の庭」
下郡　剛「幕末の琉球の日記―異国船来航記事をめぐって」
二〇一二年一二月八日
郡司　健「江戸後期の幕府・諸藩における西洋兵学受容と大砲技術―江川英龍の活動を中心として―」
和田光俊「『ラランデ天文書』による西洋天文学の受容」
大川　真「近世日本の王権論と政治のリアリズム―新井白石を中心に」
総合討論
〈第六回研究会〉
二〇一三年二月一五日
佐野真由子「持続可能な外交へ―幕末期、欧米外交官の将軍拝謁儀礼から―」
菅　良樹「外国奉行柴田剛中による神戸開港」
二〇一三年二月一六日
森田登代子「知のネットワークと地方へのまなざし―屋代弘賢『諸国風俗諸問状答』から―」
武内恵美子「藩校における楽の実施と『楽家録』」
総合討論

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析―ザ・タイガースの研究

（研究代表者　磯前順一、幹事　井上章一）
〔共同研究員名〕
浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、柿田肇、金谷幹夫、中村俊夫、永岡崇、マイケル・ファーマノフスキー、藤本憲正、倉本一宏、細川周平、西田彰一
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一二年一二月一五日
磯前順一「加橋かつみ脱退とその後」
飯田健一郎「GSとフォークソングそして京都」

柿田　肇「GSファッションをめぐる考察」
経過報告
〈第五回研究会〉
二〇一三年二月一日
磯前順一「次年度の作業方針について」
永岡　崇「基礎資料の収集・整理について」
〈第六回研究会〉
二〇一三年三月二日
資料検討会
二〇一三年三月三日
細川周平「GS音楽論」
松本　清「ザ・タイガース未発表音源について」
磯前順一「加橋かつみとタイガース」
永岡　崇「ザ・タイガース基礎資料の現状と課題」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正：過去の検証と将来への提言

（研究代表者　稲賀繁美、幹事　牛村　圭）
〔共同研究員名〕
テレングト・アイトル、鵜戸聡、大西宏志、小倉紀蔵、鞍田崇、呉孟晋、小崎哲哉、近藤高弘、戦暁梅、千葉慶、西田雅嗣、西原大輔、波嵯栄ジェニファしょう子、橋本順光、範麗雅、平松秀樹、平芳幸浩、藤原貞朗、シルヴィー・ブロッソー、クリストフ・マルケ、本浜秀彦、山本麻友美、與那覇潤、李建志、渡邊淳司、張競、滝澤修身、中村和恵、朴美貞
〔海外共同研究員名〕
大橋良介、デンニッツァ・ガブラコヴァ
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一三年一月二六日
記述言語と対象―東西価値観の対峙と相克：修辞学と美術史学の周辺
テレングト・アイトル「東洋における修辞学の変遷―日中の修辞学の比較を兼ねて」
質疑応答
範　麗雅「『日本の眼』から『中国の眼』へ：ローレンス・ビニョン、アーサー・ウェイリーとR・H・ファン・フーリックの東洋画研究」
質疑応答

二〇一三年一月二七日
海洋史観の再検討：海賊行為と公権力（その1）
稲賀繁美「翻訳の政治学と全球化への抵抗：海賊史観による美術史にむけて」
質疑討論

万国博覧会とアジア
（研究代表者　佐野真由子、幹事　劉　建輝）
〔共同研究員名〕
石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、岩田泰、鵜飼敦子、江原規由、川口幸也、神田孝治、中牧弘允、芳賀徹、橋爪紳也、林洋子、武藤秀太郎、稲賀繁美、井上章一、瀧井一博、朴美貞、ウィーベ・カウテルト
〔海外共同研究員名〕
青木信夫、徐蘇斌
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一二年一一月二三日
江原規由「中国の改革　解放政策と上海万博」
中牧弘允「文明の万博―アジアを中心に」
討論「来年度以降の研究計画について」

日本文化形成と戦争の記憶
（研究代表者　セオドア・F・クック、幹事　鈴木貞美）
〔共同研究員名〕
浅田裕子、一ノ瀬俊也、ベティナ・グラムリヒ＝オカ、加藤陽子、河野仁、川村湊、窪島誠一郎、小菅信子、モーデカイ・シェフタル、庄司潤一郎、竹内栄美子、竹本知行、田辺明生、谷口幸代、田谷治子クック、坪井秀人、等松春夫、直野章子、中川成美、花崎育代、原剛、原山浩介、平瀬礼太、平野共余子、松竹京子、南誠、宮城晴美、本康宏史、横山篤夫、吉田裕、李建志、多田伊織、稲賀繁美、末木文美士、戸部良一、ジョン・ブリーン、磯前順一、郭南燕、佐野真由子、瀧井一博、劉建輝、堀まどか、石川肇
〈第二回研究会〉
二〇一二年一〇月二七日
劉　建輝「忘却された帝国の間・『蒙彊』―張家口の歴史と文化」
多田伊織「幸田露伴一家の戦争―幸田文・青木玉の記録と記憶」

平瀬礼太「戦争と美術的イメージ絵画を中心に」
二〇一二年一〇月二八日
直野章子「戦死者慰霊と原爆の記憶―広島の動員学徒をめぐって」
原山浩介「博物館と政治」
モーデカイ・シェフタル「『文化論』から見る戦後日本の戦争記憶言説空間」
〈第三回研究会〉
二〇一三年一月一二日
等松春夫「日中戦争イメージの変遷―メディアと戦争の記憶の形成」
谷口幸代「大庭みな子の文学と戦争の記憶」
竹内栄美子「起点としての戦争―中野重治の戦後文化運動」
二〇一三年一月一三日
庄司潤一郎「第二次世界大戦の記憶をめぐる日独比較」
田谷治子クック「『サイパン玉砕』神話のもつ意味」
ジョン・ブリーン「靖国神社と文化の記憶」
横山篤夫「陸軍墓地と戦没者」
郭　南燕「『731部隊』についての語りと記憶」
川村　湊「『日本文化形成と戦争の記憶』総括」

窪島誠一郎「『日本文化形成と戦争の記憶』総括」
原　剛「『日本文化形成と戦争の記憶』総括」
ベティナ・グラムリヒ＝オカ「『日本文化形成と戦争の記憶』総括」
堀まどか「『日本文化形成と戦争の記憶』総括」

「心身／身心」と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―

（研究代表者　伊東貴之、幹事　榎本　渉）
〔共同研究員名〕
青木隆、新井菜穂子、恩田裕正、垣内景子、片岡龍、権純哲、黒住眞、桑子敏雄、黄海玉、河野哲也、橋川智昭、小島毅、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英二、田尻祐一郎、陳継東、土田健次郎、手島崇裕、永冨青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、鈴木貞美、ジョン・ブリーン、劉建輝、張翔
〔海外共同研究員名〕
陳健成、フレデリック・ジラール
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉

二〇一二年一〇月二七日
張　翔「日本近世社会体制の危機と朱子学―丸山真男の徂徠論の再検討」
劉　建輝「身体表現の差異をめぐって―中日の比較による日本文化小論」
対論：井上章一
総合討論
二〇一二年一〇月二八日
水口拓寿「孔子の祭りに牛・羊（やぎ）・豕（ぶた）は無用か？：中華文化復興運動期の台湾における『礼楽』制定過程の一斑」
総合討論
〈第五回研究会〉
二〇一二年一二月八日
土田健次郎「朱熹の『論語集注』をめぐって―東アジアの論語学」
黒住　眞「朱子学的思想文化の諸地域でのあり方とその変容史いくつか」
〈第六回研究会〉「文明と身体」との共同開催
二〇一三年一月二六日
伊東貴之「今回の共同研究会・共催の趣旨説明、その他」
牛村　圭「共同研究会『文明と身体』班の趣旨、総括と展望など」
フレデリック・クレインス、加藤めぐみ、古川優貴「事例研究」
田尻祐一郎「『心』をめぐる伊藤仁斎と闇斎学派」
総合討論
二〇一三年一月二七日
鈴木貞美「身体論から生命観の探究へ―わたしの場合」
総合討論
〈第七回研究会〉「人文諸科学の科学史的研究」との共同開催
二〇一三年三月九日
伊東貴之「伝統中国をどう捉えるか？―『唐宋変革』説・『挫折』論・その他のポレミック」
井上章一「京都大学の東洋史学と照葉樹林文化論」
小島　毅「〈東アジア海域に漕ぎ出す〉ことの意義」
総合討論

東アジア近現代における知的交流―概念編成を中心に

（研究代表者　鈴木貞美、幹事　伊東貴之）

〔共同研究員名〕
浅岡邦雄、阿毛久芳、荒川清秀、荒木正純、有馬学、磯部敦、井上健、今村忠純、岩月純一、王暁葵、岡田建志、梶山雅史、金子務、上垣外憲一、川島真、川尻文彦、衣笠正晃、木村直恵、権藤愛順、佐藤一樹、佐藤バーバラ、澤田晴美、全美星、須藤遙子、孫安石、孫江、高柳信夫、竹村民郎、竹本寛秋、田中比呂志、陳継東、陳捷、陳力衛、寺澤行忠、十重田裕一、仲万美子、中川成美、中嶋隆、野網摩利子、橋本行洋、林正子、兵藤裕己、平野健一郎、福井純子、増田周子、松田清、真鍋昌賢、村田雄二郎、リース・モートン、茂木敏夫、安田敏朗、安野一之、八耳俊文、山本美紀、吉岡亮、吉田比呂子、李梁、多田伊織、依岡隆児、小松和彦、稲賀繁美、磯前順一、郭南燕、フレデリック・クレインス、劉建輝、堀まどか、石川肇、韋立新、ハンス・マーティン・クレーマ

〔海外共同研究員名〕
馮天瑜、黄克武、麻国慶、章清、王中忱

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉
第四四回国際研究集会「東アジアにおける知的交流―キイ・コンセプトの再検討」
二〇一二年一一月一三日
鈴木貞美「東アジアにおける概念編制史研究の意義と展望」
章　清「新語と近代東アジア叙述の構築」
鄭　文惠「観念史の方法と中国研究」
許　洙「韓国における概念史研究の現状と展望」
李　漢燮「近代韓国語コーパスに現れた近代新概念の様子と定着過程」
全体討論
二〇一二年一一月一四日
ラインハルト・ツェルナー「『東アジア』を構築した思想的過程」
朴　賛勝「韓国における民族概念の成立」
李　憲昶「アジアにおいてPolitical economyの翻訳語として登場した諸用語の原義とその進化」
劉　建輝「阿片戦争以前の『概念』形成について―広州在住宣教師の翻訳活動を中心に」
呂　文浩「近代中国の優生学と人種概念」
孫　江「表象としての宗教―一八九三年シカゴ万国宗教

大会と中国」
夏　維中「明清交替と歴史の書き替え―陳於鼎の事例」
ペッカ・コルホーネン「アジアという概念」
二〇一二年一一月一五日
黄　克武「近代中国思想における『迷信』」
潘　光哲「『新語』からキーワードへ：『植民地』という概念を手がかりとして」
張　哲嘉「『重訂解体新書』の誤訳と歪曲」
李　梁「『白鹿洞書院学規』からみた近世東アジア『知』の空間―イエズス会の『学事規定』との比較において―」
田中比呂志「清末民初期の中国における『民族』概念の消長―自国史教科書の言説を中心に」
瀧井一博「象徴としての天皇―明治憲法下での議論」
吉田比呂子「日本における〈神話〉概念の創成」
木村直恵「〈社会〉以前と〈社会〉以後―明治期日本における〈社会〉概念と〈社会〉的想像の編成」
二〇一二年一一月一六日
金子　務「〈科学技術〉概念の成立」
マルクス・リュッターマン「『往来もの』の概念形成日本中近世における教育と礼法との関連について」
増田周子「明治期日本と〈国語〉概念の確立―文学者の言説をめぐって―」
依岡隆児「旧制高校からみた〈青春〉概念の形成」
寺澤行忠「日本文学にみる美的理念―子規の『古今集』評価をめぐって―」
リース・モートン「日本近代短歌における〈風景〉というキイ・コンセプトの再検討―前川佐美雄と大和」
東　晴美「芝居から演劇へ：演劇の概念の醸成に楽劇が果たした役割と伝統演劇の再評価」
多田伊織「言葉から実践へ　森鷗外晩年における『考証』の概念規定」
二〇一二年一一月一七日
総括討論
報告書の刊行について
〈第五回研究会〉
二〇一二年一二月一五日
鼎談「ラスキンの思想と田園都市」
竹村民郎「田園都市思想の一源流、ラスキン・モリス」
稲賀繁美「『芸術経済論』をめぐって」

鈴木貞美「文化史と経済史をつなぐ―ジョン・ラスキンとその影響」
堀まどか「ラスキン受容の概略―社会経済の倫理、そして象徴主義との関係―」
コメンテーター：宮本又郎

新大陸の日系移民の歴史と文化

（研究代表者　細川周平、幹事　瀧井一博）

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、一政（野村）史織、粂井輝子、栗山新也、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、高木（北山）眞理子、滝田祥子、竹村民郎、日比嘉高、松岡秀明、水野真理子、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、高橋勝幸

〔海外共同研究員名〕

根川幸男、エドワード・マック

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一二年一二月八日

アマゾン民族館（出羽庄内国際村）見学

インタビュー「山口吉彦館長をまじえて」

二〇一二年一二月九日

アマゾン自然館（月山あさひ博物村）見学

〈第五回研究会〉

二〇一三年一月一二日

栗山新也「越境的な芸能史をモノから考える―戦前の沖縄を中心に」

吉田裕美「語りのなかで構築されるハワイの『ローカル』」

討議「来年度の活動方針について」

日記の総合的研究

（研究代表者　倉本一宏、幹事　佐野真由子）

〔共同研究員名〕

蘭香代子、有富純也、池田節子、石田俊、板倉則衣、井原今朝男、今谷明、磐下徹、上島享、上野勝之、小倉久美子、小倉慈司、尾上陽介、加藤友康、久冨木原玲、小嶋菜温子、古藤真平、佐藤早紀子、佐藤信、佐藤全敏、佐藤泰弘、下郡剛、シャバリナ・マリア、末松剛、菅良樹、菅原昭英、瀬田勝哉、曽我良成、富田隆、中西和子、中町美香子、中村康夫、名和修、西村さとみ、畑中彩子、林友里

江、カレル・フィアラ、藤本孝一、古瀬奈津子、堀井佳代子、松薗斉、松田泰代、三橋順子、三橋正、森公章、山下克明、横山輝樹、吉川真司、吉川敏子、吉田小百合、近藤好和、荒木浩、稲賀繁美、井上章一、鈴木貞美、榎本渉、瀧井一博、マルクス・リュッターマン、門脇朋裕

〔海外共同研究員名〕

金恩淑、呉海航、鈴木多聞

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一二年一〇月二〇日

尾上陽介「記事の筆録態度にみる記主の意識について」

古瀬奈津子「藤原行成『権記』と『新撰年中行事』の前提として」

二〇一二年一〇月二一日

小倉慈司「日記逸文の記事改変の可能性についての検討」

堀井佳代子「西宮記にみえる日記の利用―『権記』を中心に―」

三橋　正「古記録の首書と目録―『小右記』『左経記』を中心に―」

三橋順子「『台記』に見る藤原頼長のセクシュアリティの再検討（その2）」

〈第五回研究会〉

二〇一二年一二月二二日

佐藤全敏「宇多天皇の文体2」

曽我良成「『鬱』の記録・・・平重盛の『鬱』を緒として・・・」

二〇一二年一二月二三日

榎本　渉「日文研所蔵『季瓊日録』について」

山下克明「具注暦の文化史―日記との関わりを中心として―」

上島　享「中世寺院における日記・記録・文書―勧修寺大経蔵からみえるもの―」

〈第六回研究会〉

二〇一三年二月二三日

吉川真司「『類聚世要抄』と中世寺院社会」

井原今朝男「室町期の奏事目録と綸旨・院宣・宣旨下知状」

二〇一三年二月二四日

荒木　浩「日記からの物語形成―中世説話集の方法―」

名和　修「『御堂関白記』の古写本について」

冷泉家見学

基礎領域研究

韓国語運用の基礎／応用（継続）
代表者　松田利彦
概　要　研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

近世風俗未公刊資料解読（継続）
代表者　早川聞多
概　要　センター所蔵の近世風俗資料の解読および変体仮名の解読演習を行う。

古文書研究（継続）
代表者　笠谷和比古
概　要　前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録などの読解を行う。

フランス語運用の基礎／応用（継続）
代表者　稲賀繁美
概　要　フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせて必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

文化論の基礎概念と方法（継続）
代表者　鈴木貞美
概　要　日本文化に関する国際的、学際的研究法の基本について、とりわけ、基礎概念および概念編成について研究を行う。

中国語運用の基礎／応用（継続）
代表者　郭　南燕
概　要　研究その他の業務で中国語を必要とする人に対して、中国語運用の基礎を実践的に訓練し、会話、読解、聴解の習得を目的とする。

日本宗教史基礎研究（継続）
代表者　末木文美士
概　要　日本宗教史に関する基礎的な問題に関して討議する。

宗教・文化の理論的研究（継続）
代表者　磯前順一
概　要　日本内外における宗教および文化に関する最新の理論的研究を取り上げ、文体の問題から、理論と感情の問題に至るまで幅広く考察する。